



1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	澄川小学校	階数		
建設地	札幌市南区澄川5条4丁目229-26、229-39、229-40、389-2664、468	構造		
用途地域	第一種低層住居専用地域、近隣商業地域	平均居住人員		
気候区分	1地域	年間使用時間		
建物用途	学校	評価の段階		
竣工年	2019年3月 予定	評価の実施日		
敷地面積	17,401 m ²	作成者		
延床面積	3,381 m ²	確認日		
延床面積	7,043 m ²	確認者		

2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)
BEE = 1.3 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★ 	標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+ このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。	Q2 サービス性能 Q1 室内環境 Q3 室外環境 (敷地内) LR1 エネルギー LR2 資源・マテリアル LR3 敷地外環境

2-4 中項目の評価 (バーチャート)		
Q 環境品質		
Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.3 	Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.2 	Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア= 2.7
LR 環境負荷低減性		
LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.7 	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.1 	LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.4

3 設計上の配慮事項		
総合 ・F☆☆☆建材を積極的に採用し、ほかのVOCに対しても配慮している。 ・学校施設内、敷地内を全面禁煙としている。 ・車椅子対応の駐車場、エレベーターや多目的便所（オストメイト設置）を整備している。 ・道産木材を積極的に使用している。		
B 省エネルギー ・節水型器具の採用により、水資源の保護を図っている。	C 緑化 ・札幌市緑の保全と創出に関する条例の基準数値を上回る緑化計画を図っている。 ・植栽計画による景観への配慮。	A 省エネルギー ・外断熱工法を採用している。 ・吹抜けにトップライトを設けて、通風・採光等による室内環境の向上を図っている。 ・屋上に太陽光パネルを設置し、発電による自然エネルギーの有効活用を図っている。 ・明るさセンサーによる自動調光制御及び入室検知を採用し、高効率化を図っている。
D 雪処理 ・冬の積雪を考慮し、昇降口前を広いピロティとしている。 ・敷地内の建物周りを除雪機が通れる配置計画としている。		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE Sapporo2014v1.2 澄川小学校		欄に数値またはコメントを記入				■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2014v1.2		■評価ソフト: CASBEE札幌2014 (ver.1.3)	
スコアシート	実施設計段階	重点評価項目				■A:省エネルギー	■B:省資源	■C:緑化	■D:雪処理
配慮項目	重点評価項目	環境配慮設計の概要記入欄				建物全体・共用部分	住居・宿泊部分	全体	
	A B C D					評価点	重み係数	評価点	重み係数
Q 建築物の環境品質									
Q1 室内環境							0.40	-	-
1 音環境						3.2	0.15	-	-
1.1 騒音						3.0	0.40	-	-
1.2 遮音						3.6	0.40	-	-
1 開口部遮音性能					遮音等級T-2	5.0	0.30	3.0	-
2 界壁遮音性能						3.0	0.30	3.0	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						3.0	0.20	3.0	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						3.0	0.20	3.0	-
1.3 吸音						3.0	0.20	3.0	-
2 温熱環境						3.0	0.35	-	-
2.1 室温制御						3.8	0.50	-	-
1 室温						3.0	0.60	3.0	-
2 外皮性能	A				外断熱工法、Low-E複層ガラス採用	5.0	0.40	5.0	-
3 ゾーン別制御性						3.0	-	-	-
2.2 湿度制御						1.0	0.20	3.0	-
2.3 空調方式						3.0	0.30	3.0	-
3 光・視環境						3.4	0.25	-	-
3.1 昼光利用						4.2	0.30	-	-
1 昼光率					昼光率6.5%以上	5.0	0.60	3.0	-
2 方位別開口						-	-	3.0	-
3 昼光利用設備	A					3.0	0.40	3.0	-
3.2 グレア対策						2.0	0.30	-	-
1 昼光制御	A					2.0	1.00	3.0	-
2 障り込み対策						-	-	-	-
3.3 照度						2.0	0.15	5.0	-
3.4 照明制御					明るさセンサーによる自動調光制御及び入室検知	5.0	0.25	5.0	-
4 空気質環境						3.8	0.25	-	-
4.1 発生源対策						5.0	0.50	-	-
1 化学汚染物質					F☆☆☆☆の材料を積極的に採用	5.0	1.00	5.0	-
2 アスベスト対策						-	-	-	-
4.2 換気						2.3	0.30	-	-
1 換気量						3.0	0.33	5.0	-
2 自然換気性能						1.0	0.33	5.0	-
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.33	5.0	-
4.3 運用管理						3.0	0.20	-	-
1 CO ₂ の監視					施設内・敷地内の全面禁煙	1.0	0.50	-	-
2 喫煙の制御						5.0	0.50	-	-
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-
1 機能性						3.0	0.40	-	-
1.1 機能性・使いやすさ						3.0	0.40	-	-
1 広さ・収納性						3.0	-	3.0	-
2 高度情報通信設備対応						3.0	-	5.0	-
3 バリアフリー計画						3.0	1.00	-	-
1.2 心理性・快適性						3.0	0.30	-	-
1 広さ感・景観						3.0	0.50	5.0	-
2 リフレッシュスペース						3.0	-	-	-
3 内装計画						3.0	0.50	-	-
1.3 維持管理						3.0	0.30	-	-
1 維持管理に配慮した設計						3.0	0.50	-	-
2 維持管理用機能の確保						3.0	0.50	-	-
3 衛生管理業務						-	-	-	-
2 耐用性・信頼性						3.6	0.30	-	-
2.1 耐震・免震						3.8	0.50	-	-
1 耐震性					建物の重要度係数1.25	4.0	0.80	-	-
2 免震・制振性能						3.0	0.20	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数						3.1	0.30	-	-
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						2.0	0.20	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	B				内壁仕上げ材10年使用可能	4.0	0.10	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	B					3.0	0.10	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	B				2種類以上にC以上を使用	4.0	0.20	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔	B					3.0	0.20	-	-
2.4 信頼性						4.2	0.20	-	-
1 空調・換気設備					災害時に重要度の高いシステムを優先的に運転する	5.0	0.20	-	-
2 給排水・衛生設備					災害時における上水の有効利用が可能	5.0	0.20	-	-
3 電気設備						3.0	0.20	-	-
4 機械・配管支持方法					人名の安全を確保した上で重要な機械・配管が転倒せずかつ稼動可能	4.0	0.20	-	-
5 通信・情報設備					災害時の有線電話・FAX・地域防災無線を設置	4.0	0.20	-	-
3 対応性・更新性						3.2	0.30	-	-
3.1 空間のゆとり						4.0	0.30	-	-
1 階高のゆとり					階高3.7m確保	4.0	0.60	5.0	-
2 空間の形状・自由さ					壁長さ比率2.2	4.0	0.40	5.0	-
3.2 荷重のゆとり						3.0	0.30	5.0	-
3.3 設備の更新性						2.8	0.40	-	-
1 空調配管の更新性						2.0	0.20	-	-
2 給排水管の更新性						3.0	0.20	-	-
3 電気配線の更新性						3.0	0.10	-	-
4 通信配線の更新性						3.0	0.10	-	-
5 設備機器の更新性						3.0	0.20	-	-
6 バックアップスペースの確保						3.0	0.20	-	-

CASBEE Sapporo2014v1.2 澄川小学校		欄に数値またはコメントを記入		■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2014v1.2 ■評価ソフト: CASBEE札幌2014 (ver.1.3)							
スコアシート	実施設計段階	重点評価項目		■A:省エネルギー	■B:省資源	■C:緑化	■D:雪処理				
配慮項目	重点評価項目				建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体		
	A	B	C	D	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q3 室外環境(敷地内)							-	0.30	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出			C				2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			C				3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮							3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上				D			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		B	C				3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性							-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー							-	0.40	-	-	3.7
1 建物外皮の熱負荷抑制	A				BPIm=0.61		4.0	0.20	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用	A						3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化							4.0	0.50	-	-	4.0
集合住宅以外の評価(3a.3b)	A				空調設備、照明設備の高効率化		4.0	1.00	-	-	
集合住宅の評価(3c)	A						-	-	-	-	
4 効率的運用							3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価							3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング	A						3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制	A						3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価							-	-	-	-	
4.1 モニタリング	A						3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制	A						3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル							-	0.30	-	-	3.1
1 水資源保護							3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水					節水型便器の使用		4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用							3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無							3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無							3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減							3.1	0.60	-	-	3.1
2.1 材料使用量の削減		B					2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		B					3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		B					3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		B					3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		B					3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		B			躯体と仕上げ材が容易に分別可能		4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避							3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用							3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避							3.0	0.70	-	-	
1 消火剤		B					-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		B					3.0	0.50	-	-	
3 冷媒		B					3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境							-	0.30	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮		B			都市ガス(天然ガス)を採用、緑化基準を満たしている		5.0	0.33	-	-	5.0
2 地域環境への配慮							2.4	0.33	-	-	2.4
2.1 大気汚染防止		B					3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		B	C	D			2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制							2.7	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減		B			敷地内で処理。敷地の流出係数0.502		4.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制							3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制							1.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制		B		D			3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮							3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止							3.0	0.40	-	-	
1 騒音							3.0	0.50	-	-	
2 振動							3.0	0.50	-	-	
3 悪臭							-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制							3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制							3.0	0.60	-	-	
2 砂塵の抑制							3.0	0.20	-	-	
3 日照阻害の抑制							3.0	0.20	-	-	
3.3 光害の抑制							3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策							3.0	0.70	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策							3.0	0.30	-	-	

Comprehensive Assessment System for Building Environmental Efficiency

CASBEE札幌



重点項目 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2014v1.2

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2014(ver.1.3)

1 建物概要					
建物名称	澄川小学校	BEE	1.3	BEEランク	B ⁺
建物用途	学校	総合評価 ★★★★★			
延床面積	7,042.73 m ²				

2 重点項目への取り組み		レーダーチャート	
地球温暖化対策	最重点項目 省エネルギー	★★★★★	この建物は特に 雪処理 が優れています
	省資源等	★★★★★	
	緑化	★★★★★	
	雪処理	★★★★★	

3. 設計上の配慮事項とCASBEEスコア					
A 省エネルギー		合計 16点 / 24点			
Q1 温熱環境	スコア	1.0	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア	3.0
Q1 光・視環境	スコア	1.0	LR1 自然エネルギー利用	スコア	1.0
			LR1 設備システムの高効率化	スコア	8.0
			LR1 効率的運用	スコア	2.0
B 省資源等		合計 16点 / 23点			
Q2 耐用性・信頼性	スコア	1.0	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア	6.0
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.0	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア	1.0
			LR3 地球温暖化への配慮	スコア	5.0
			LR3 地域環境への配慮	スコア	2.0
C 緑化		合計 8点 / 16点			
Q3 生物環境の保全と創出	スコア	2.0	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.0
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア	4.0			
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.0			
D 雪処理		合計 3点 / 3点			
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア	2.0

4 設計上の配慮事項			
A 省エネルギー			
・外断熱工法を採用している。 ・吹抜けにトップライトを設けて、通風・採光等による室内環境の向上を図っている。 ・屋上に太陽光パネルを設置し、発電による自然エネルギーの有効活用を図っている。 ・明るさセンサーによる自動調光制御及び在室検知を採用し、高効率化を図っている。			
B 省資源等	C 緑化	D 雪処理	
・節水型器具の採用により、水資源の保護を図っている。	・札幌市緑の保全と創出に関する条例の基準数値を上回る緑化計画を図っている。 ・植栽計画による景観への配慮。	・冬期の積雪を考慮し、昇降口前を広いピロティとしている。 ・敷地内の建物周りを除雪機が通れる配置計画としている。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される